

平成 26 年度 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
「職業実践専門課程」制度創設に伴う取組の推進事業

事業名

「イストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを使い
こなす教員養成研修モデルの開発・実証」

一般社団法人全国専門学校教育研究会

第 2 回 実施委員会／第 3 回 開発・実証委員会／第 3 回 評価委員会
合同委員会 次第

日 時 平成 26 年 11 月 12 日 (水) 14 時 00 分～16 時 00 分
場 所 東京ガーデンパレス 2F 「天空 A」
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-7-5 TEL.03-3813-6211

1. 開 会

2. 主催者挨拶

一般社団法人全国専門学校教育協会 会長 浦山 哲郎

3. 議 題

(1) ID 分科会の進捗状況報告と内容の協議

- ・ ID 分科会経緯 (第 1 回／第 2 回／第 3 回)
- ・ ID における教材設計・教員育成用教材作成支援 成果物概要
- ・ 職業実践専門課程と ID の関係
- ・ ID アンケート項目案
- ・ ID 事前学習用 e ラーニング (案)

(2) AL 分科会の進捗状況報告と内容の協議

- ・ AL 分科会経緯 (第 1 回／第 2 回)
- ・ AL 型授業と AL セッション
- ・ AL 型授業を実践する教員育成のための計画

(3) 今後の日程について

4. 閉会

- 別資料
- ・ ID 分科会議事録 (第 1 回／第 2 回／第 3 回)
 - ・ AL 分科会議事録 (第 1 回／第 2 回)

平成26年度

一般社団法人全国専門学校教育研究会

「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証

第2回 実施委員会／第3回 開発・実証委員会／第3回 評価委員会 委員紹介一覧

(順不同/敬称略)

	氏名	所属先	役職	委員会	
1	浦山 哲郎	一社) 全国専門学校教育研究会 学校法人浦山学園	会長 理事長	事業統括 実施委員長	
2	井本 浩二	一社) 全国専門学校教育研究会 専門学校 YIC グループ	副会長 代表	実施委員	
3	佐竹 新市	学校法人龍馬学園	理事長	実施委員	
4	安藤 喬	学校法人三友学園	専務理事	実施委員	欠
5	松井 祥高	学校法人利幸学園	専務理事	実施委員	欠
6	國分 義史	学校法人明倫館	理事長	実施委員	
7	山崎 彰	学校法人郷学舎	理事長	実施委員	
8	川崎 千春	学校法人新潟総合学院	常務理事	実施委員	
9	河原 成紀	学校法人河原学園	理事長	実施委員 評価委員	欠
10	中越 晃	学校法人九州国際学園	理事長	実施委員	欠
11	栗原 寛隆	学校法人栗原学園	理事長	実施委員	欠
12	川越 宏樹	学校法人宮崎総合学院	理事長	実施委員	
13	片岡 均	学校法人つくば総合学院	理事長	実施委員	
14	坪内 浩一	学校法人平成坪内学園	理事長	実施委員	
15	龍澤 正美	学校法人龍澤学館	理事長	実施委員	
16	山本 絵里子	学校法人山本学園	副理事長	実施委員	
17	鷺澤 文治	学校法人平青学園	専務理事	実施委員	
18	大平 康喜	学校法人穴吹学園	専務理事	実施委員	欠

19	大城 圭永	学校法人KBC学園	副理事長	開発実証委員 ID 分科会委員	
20	中島 慎太郎	学校法人有坂中央学園	常務理事	開発実証委員 ID 分科会委員	
21	龍澤 尚孝	学校法人龍澤学館	本部長	開発実証委員 AL 分科会委員	欠
22	岡村 慎一	専門学校YICグループ	理事	開発実証委員 評価委員 ID 分科会委員 AL 分科会委員	
23	伊藤 慎二郎	学校法人穴吹学園	理事副校長	開発実証委員 AL 分科会委員	
28	山口 典子	株式会社ウチダ人材開発センタ	インストラクション課長	ID 分科会委員	
29	小林 昭文	AL&AL教育研究所	研究員	AL 分科会委員	
24	飯塚 正成	有限会社ザ・ライスマウンド	代表取締役	開発実証委員	
32	永井 真介	学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	校長	開発実証委員 事務局	
25	小野 紘昭	一財) 職業教育キャリア教育財団 啓明学園	理事 理事	評価委員	欠
26	石田 敬二	株式会社東京海上日動キャリアサービス	執行役員事業部長	評価委員	欠
27	齋藤 進	株式会社エデュースホールディングス	代表取締役	評価委員	
30	下島 耕一	鹿児島情報ビジネス専門学校	本部長	事務局	
31	花田 香央理	鹿児島情報ビジネス専門学校		事務局	
33	飯塚 久仁子	有限会社ザ・ライスマウンド		事務局	

<代理出席>

	宮岡 良次	学校法人三友学園	事務局長	実施委員 代理	
	芦澤 昌彦	学校法人河原学園	自己点検評価室室長	実施委員 代理 評価委員 代理	
	福田 稔	学校法人穴吹学園	理事	実施委員 代理	

※ ID 分科会委員＝インストラクショナルデザイン分科会委員


※ AL 分科会委員＝アクティブラーニング分科会委員

事業名	「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会
会議名	「インストラクショナルデザイン分科会」
開催日時 出席者	第1回 平成26年9月16日(火) 13:00~15:00(2h) 委員9名他4名 第2回 平成26年10月10日(金) 14:00~16:00(2h) 委員8名他4名 第3回 平成26年10月30日(木) 14:00~16:00(2h) 委員9名他4名 第4回 平成26年11月10日(月) 14:00~16:00(2h) 議事録(未)

進捗状況

議題等	<p>【第1回】</p> <p>委員紹介(各委員、オブザーバー、事務局の自己紹介、役割確認等)</p> <p>IDに関する説明(ウチダ人材開発センター)</p> <p>ID研修プログラムの開発内容案について</p> <p>本プログラム開発に関する検討事項</p> <p>「職業実践専門課程」を踏まえた上でどのようにインストラクショナルデザインの教育手法を活用するか。</p> <p>教員養成に関して</p> <p>次回以降の委員会のスケジュール確認</p> <p>【第2回】</p> <p>成果物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドを使用した事前アンケートのサンプル紹介(Google Docs) ・事前のeラーニングで紹介する企業の事例は、今年度は事例紹介のみ。次年度は担当者のインタビューも盛り込む予定 ・集合研修(12月18日~19日12時間)は、事前に学んだ知識、課題を使っでのディスカッション、グループワーク中心。 ・事後は、今年度はアンケート形式で実施した事例がある教員は提出。 ・企業の事例についての意見 ・NEG、キャノン、JTBが候補だが、他の事例もあれば入れたい。 <p>eラーニングについて</p> <p>事前アンケートについて</p> <p>事前課題、事後事例</p> <p>【第3回】</p> <p>概念図について(別紙資料)</p> <p>アンケートについて(別紙資料)</p> <p>現状報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングの作成中。11月18日から受講可能とする。 ・11月12日の委員会でもプロトタイプを紹介する予定。
-----	--

以上



インストラクショナルデザイン における教材設計・教員育成用 教材作成支援 成果物概要

一般社団法人全国専門学校教育研究会
「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成
研修モデルの開発・実証
「インストラクショナルデザイン分科会」

2014/11/12

概要

「職業実践専門課程」の普及を図るため、認定基準である企業・業界団体等との連携による教育課程の編成や演習・実習の授業運営等の好事例を示し、認定を目指す機運の醸成と教員の資質向上を図る研修モデルの開発・実証を行う

開発の目的

- 各学生の知識・技術等の習得度を高めるために、インストラクショナルデザイン（以下ID）を用いた体系的なカリキュラムの編成を行える教員の養成
- 社員教育にIDを導入している複数の実際の企業の事例を明らかにしIDに則った授業を行うことにより、学生の企業が求める社会人像への移行を促進できる教員の養成
- 産学連携による多様な教育方法を活用し、目標とする人材像に必須のスキル、もしくははその評価基準を可視化したシラバスの作成が行える教員の養成
- 教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成する

構成

事前

- eラーニング：4時間
- 課題作成と提出：5時間

研修

- 集合研修：12時間

事後

- ID活用後アンケート：4時間
- 事例検討会：5時間

事前、事後を含めた研修の目標

- IDを用いて明確化された目標・学習項目の各項目を記述することができる
- IDの課題分析方法を用い、学習課題に適した分析を行うことができる
- 自らの持つ担当科目に於いてIDの課題分析法を用いて、ロードマップを作成できる
- ガニエの9教授事象、ケラーのARCSモデル、IDの5つの視点を取り入れた指導方略を考え、授業計画を作成できる
- 自担当の研修をIDで組み立て直し、その結果を他の教員と共有しディスカッションすることにより具体的なIDの使い方をイメージできる
- IDで組み立てた授業を実施し、それを振り返ってフィードバックを受けることにより、今後の課題を明確にすることができる

事前

- 集合研修で使用する教材を元にしたeラーニングでの事前学習（LMS上での受講）
- 受講履歴、進捗、小テスト結果が確認できる
- インターネットのクラウドサイトを利用した課題の作成と提出

eラーニング	4 h	課題作成と提出	5 h
インストラクショナルデザインについて	3 h	チェックリストによる確認	1 h
1.システムの教育設計の概要 2.目標設定 3.学習目標の分類 4.課題分析 5.授業計画の作成 6.教育の改善		自分の授業が今どの程度IDを取り入れられているかを確認する 1.出口 2.入口 3.構造 4.方略 5.環境	
企業のIDによる教育担当者インタビュー	1 h	ロードマップ作成	3 h
NEC キヤノン JTB		eラーニングの課題分析で学んだロードマップを自らの担当科目で作成してみる	
		提出とフィードバック	1 h
		1. クラウドにアップロード 2. 他投稿者の成果物の確認 3. コメントによるフィードバック	

集合研修

1日目：AM3h PM3h

1. システム的教育設計の概要

- IDの概要
- 何故IDを用いて教えるのか？－教員としての姿勢－
演習：現在の自分の授業・姿勢についてディスカッション
- IDの活用事例（学校での活用事例、企業での活用事例）
- 魅力的な授業の設計(IDの5つの視点、ARCSモデルの紹介)
- 学習システム（カリキュラム、シラバス、教材等）の設計・開発手順
演習：今の自分の学校の目標・カリキュラム・シラバスについてディスカッション

2. 目標設定

- 目標と目的の違い
- 目標の明確化の3つのポイント「目標行動／評価条件／合格基準」
- 目標設定の良い例・悪い例
演習：目標例の修正

3. 学習目標の分類

- 言語情報、知的技能、運動技能、態度、学習目標に応じた評価
- 評価の種類
- テストについて（前提、事前、事後）
演習：目標の分類と設定

2日目：AM3h PM3h

4. 課題分析

- 学習課題に応じた分析手法（クラスタ分析、階層分析、手順分析）、課題分析図とは
- 目標の分析による目標のブレイクダウン・詳細化
- ロードマップ作成方法
演習：自担当の授業の半期の目標設定
演習：目標の分析によるロードマップ作成

5. 授業計画の作成

- ガニエの9教授事象による授業計画の作成
- 指導方略とは
- ケラーのARCSモデル、ARCS-Vモデル、IDの5つの視点
演習：授業計画の作成

6. 教育の改善

- 形成的評価と総括的評価
- ADDIEモデルによる改善

7. 総合演習

作成したカリキュラム・シラバスの修正と発表
フィードバック
ディスカッション

事後

- ・ インターネットのクラウドサイトを利用したアンケートの提出
- ・ ディスカッションとインストラクターによる講評
- ・ 作成したロードマップ、授業計画をデータベース化し共通の形式知とする

ID活用後アンケート	4 h	事例検討会	5 h
アンケートフォームによる提出	2 h	再提出	3 h
自分の授業でIDを取り入れた結果を確認し、回答する		研修後に作成したロードマップ、授業計画を修正しクラウドにアップロード	
1.科目		ディスカッション	1 h
2.実施方法		再提出されたロードマップ、授業計画をもとに、クラウドのサイトを利用してディスカッション	
3.評価			
4.学生の反応			
5.反省点			
6.感想			
他事例の研究	1 h	講評	1 h
他の教員のアンケート結果を確認し自担当の授業と比べてみる		インストラクターによる講評	
フィードバック	1 h		
コメントによる教員同士でのフィードバックを行い、今後の課題を明確にする			

12/18-19 実証講座

- 事前

- eラーニングは企業ID担当者インタビューを含まないプロトタイプを実施
- 提出課題は「チェックリスト」のみ、アップロード環境もプロトタイプ







- 実証講座

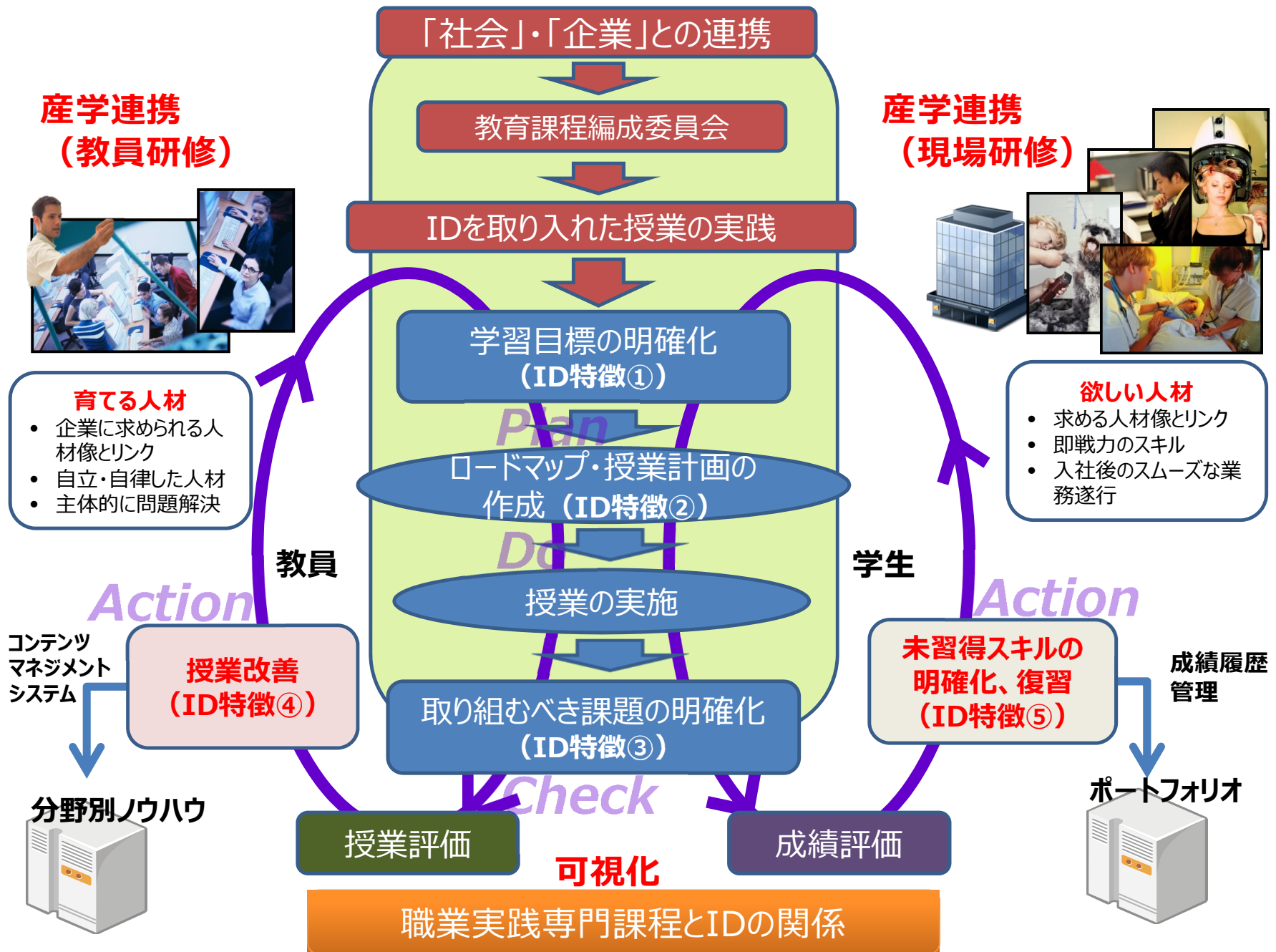
- 2日間の研修

- 事後

- 今回は実施しない（実証講座後に即IDを導入してみた方がいれば事例としてアンケート提出は可能）

タイムライン

	2014/10月	11月	12月	2015/1月	2月	3月
事前eラーニング作成 (実証実験用プロトタイプ)						
事前課題提出環境作成 (実証実験用プロトタイプ)						
実証講座の教材作成、修正						
実証講座 事前課題提示 (11/18) 実証講座 (12/18~19)						
最終的見直しと次年度以降への課題						
報告書作成						



「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証 インストラクショナルデザイン アンケート項目案

1. アンケート依頼文

この度、「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発を行うにあたりまして専門学校にて教鞭を執っている方々を対象に、ご自分の担当する授業に関するアンケートを実施することになりました。

このアンケートはインストラクショナルデザイン（以下 ID）という考え方に基づいた授業がどれくらい取り入れられているかの傾向を計るためのアンケートであり、授業を評価するものではありません。すでに ID をご自分の授業に活用している方は再確認にお使いいただき、ID をご存じない方にはご自分の授業設計のヒントになると考えております。

つきましては、ご多忙中恐れ入りますが、以下の URL からアンケートにお答えいただき、率直なご意見をお聞かせください。なお、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。何卒、ご協力よろしくお願い申し上げます。

2. 授業と担当講師のプロファイル

I. 学校名 _____

II. 学校所在地（都道府県） _____

III. 企業勤務経験

あり なし

IV. 教員経験 _____年

V. 分野

工業

教育・社会福祉

農業

商業実務

医療

服飾・家政

衛生

文化・教養

分野なし

VI. 科目名 _____

VII. 講義形態

講義

実習

講義＋演習

VIII. 授業種別

必修 選択

IX. 課程

職業実践専門課程

高等課程

その他

3. アンケート内容

1.学習目標の設定と評価方法の妥当性		
授業の成果を「学習時間の長さ」ではなく「学習成果の到達度」で判定しているか	Yes No -	
学生に対し学習目標を授業開始時に分かりやすく明確な言葉で提示しているか	Yes No -	
事後テスト合格者は授業の目標をマスターした人だと自信をもって判断できるか	Yes No -	
事後テストには目標とした学習項目全部をカバーするように色々な問題が十分あるか	Yes No -	
2.学生の前提知識と習熟度の確認方法		
学生がその授業を受けるのに必要な前提知識を持っているかどうかを自己判断できる材料があるか	Yes No -	
学生のその授業の目標に対する習熟度を判別する仕組みがあるか（事前テスト等）	Yes No -	
学生が授業の目標に対する習得状況を確認でき、自分のペースや自分の選択で学習を進められる工夫があるか	Yes No -	
3.分かりやすい授業構成の提示		
スケジュール表・カリキュラムの全体図（ロードマップ）などが用意され、学生に授業の全体像・学習項目間の関係が示されているか	Yes No -	
不要な内容を避け、学習開始直後に目標の達成に向けた内容を展開しているか	Yes No -	
学生に対し、その授業の学習の進め方が分かりやすく示されているか	Yes No -	
1回の授業の中で講義スタイルに変化があり、学生が飽きないような工夫があるか	Yes No -	
4.学習目標の達成を支援する授業内容・教授方法の工夫		
授業の中で示されている情報は何についての情報提示なのかが明らかか（タイトルや見出し）	Yes No -	
すでに知っていることと関係づけながら新しい情報を提示・解説しているか	Yes No -	
文字情報ができる限り図表を用いて構造化され、学生の理解を促進しているか	Yes No -	
文字情報以外のイラスト、写真、動画、ナレーション等は学習効果を高めているか	Yes No -	
学生が誤りを気にしないで試せる状況（リスクフリー）で練習をする機会が十分にあるか	Yes No -	
学生が事後テストと同じレベル（難易度／回答方法）で仕上げの練習をする機会があるか	Yes No -	
学生が苦手なところ／覚えられない項目を集中して練習する工夫があるか	Yes No -	
5.適切なメディアの選択とサポート体制の確立		
学習目標の達成を支援するために適切なメディアが効果的に使われているか	Yes No -	
学生が自己主導的に持続して学習を進めていけるようなサポートが準備されているか	Yes No -	

インストラクショナルデザイン事前学習用 e ラーニング (案)

こちらです。まだ実装できていない機能があります。どうか、ご了承ください。

<https://lms. emanabi. jp/lms2/>

■受講者用

ID : zsendemo01

PW : zsendemo01

デモ用の為、実装が不十分です。

1. 進捗率 (学習の修了)

コンテンツを開始した時点

2. 確認テスト

未実装

3. コンテンツないアニメーション

未実装

事前		事前	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合研修で使用する教材を元にしたeラーニングでの事前学習 (LMS上での受講) ・ 受講履歴、進捗、小テスト結果が確認できる ・ インターネットのクラウドサイトを利用した課題の作成と提出 			
eラーニング	4 h	課題作成と提出	5 h
インストラクショナルデザインについて	3 h	チェックリストによる確認	1 h
1. システム的教育設計の概要		自分の授業が今の程度IDを取り入れられているかを確認する	
2. 目標設定		1. 出口	
3. 学習目標の分類		2. 入口	
4. 課題分析		3. 構造	
5. 授業計画の作成		4. 方略	
6. 教育の改善		5. 環境	
企業のIDによる教育担当者インタビュー	1 h	ロードマップ作成	3 h
NEC		eラーニングの課題分析で学んだロードマップを自らの担当科目で作成してみる	
キヤノン		提出とフィードバック	1 h
JTB		1. クラウドにアップロード	
		2. 他投稿者の成果物の確認	
		3. コメントによるフィードバック	

予定：11月18日以降利用可能にして、実証講座受講者は事前に学習しておく。

使用マニュアル等は受講希望者に随時連絡。

以上
ID 分科会

「AL型授業」

**=「アクティブラーニング(能動的学習)型授業」
と**

「ALセッション」

=「アクションラーニング・セッション」

**～本事業に対する必要性と
両者の違いについての補足～**

アクティブラーニング分科会

2014/11/12

目次

- 1 AL型授業の定義、必要性、効果
- 2 教員育成に必要な理論「学習する組織」
- 3 ALセッションの定義、必要性、効果
- 4 リーダーシップについての新しい定義

新学習指導要領では、
「言語活動の充実」
「思考力・判断力・表現力の育成」
が目玉です。
文科省のパンフをみてください。

また、海外でも同種の研究は盛んです。反転授業に関する研究もご覧ください。

思考力、判断力、表現力等を育むために

例えばこんな言語活動で授業改善

一言授業だけでなく...



先生が説明するだけでなく...



板書をノートに写すだけでなく...



ホワイトボードを使って話し合う

製作物を使って発表する
(ポスターセッション)

生徒が説明する

レポートにまとめる

付箋を使って話し合う

立場を決めて討論する

新聞にまとめる

ペアで意見を交換する

ICTを活用する

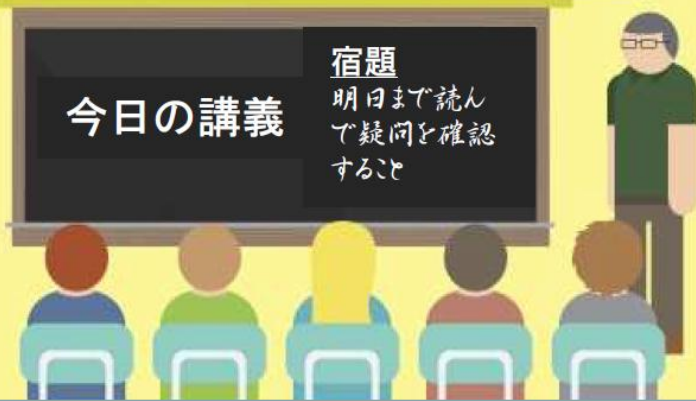
反転学習は伝統的な教授方法を転換します。オンラインによる「教え込み」を教室の外に出し、これまでの「宿題」を教室に移動させます。

アメリカの動き

転換

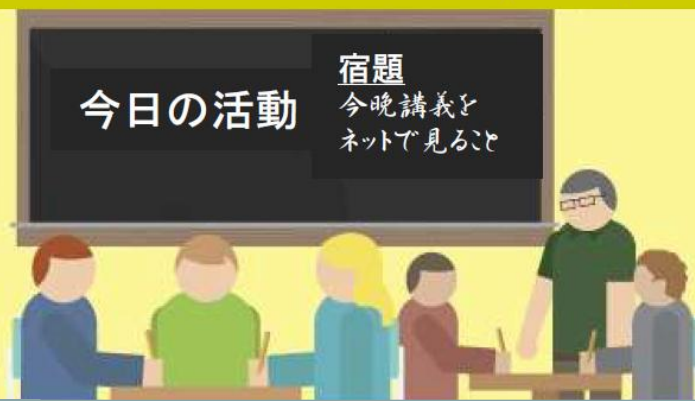
伝統的授業

教師の役割: 教壇の賢者(指導者)



反転授業

教師の役割: 隣にいる案内人(ガイド)



より正確にはこの授業における教師の役割は「学習者に寄り添う導き手 guide on the side」となります。では、その技法は？

ここに「カウンセリング」「グループエンカウンター」「コーチング」「選択理論」「対話」「アクションラーニング」「メンタリング」などの対人関係技法が役立つこととなります。

※壇上の賢人 sage on the stage

これらのように、一方的な講義だけではない授業のことを、「アクティブラーニング(能動的学習)型授業」(AL型授業)と呼びます。この分科会では以下の定義をとることにします。

アクティブラーニングの新しい定義

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。(溝上慎一2014)

【出典「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」東信堂】

AL型授業(アクティブラーニング型授業)の定義

学習者にアクティブラーニングが起きることを含む全ての授業形式。(形式・スキルの縛りが無い→実践者にとっては有用)

【出典:同上】

アクティブラーニング分科会の委員の1人、小林は7年前に高校物理でAL型授業を開発して、実践してきました。その授業構造と効果を以下に示します。

小林らの実践は高校教育に大きなインパクトを与え、ここ数年で全国の様々な高校で、あらゆる教科科目の授業においてAL型授業の実践が始まっています。

また、大学入試改革に伴う「高等学校基礎学力テスト(旧称:達成度テスト)」や「大学入学希望者学力評価テスト」に対応する授業としても注目されています。

数年後にはこのような高校教育を受けてきた生徒たちが専門学校に大量に入学してくることになります。

その意味でも専門学校におけるAL型授業の導入・拡大・質的向上は急務と言わざるを得ません。

小林の物理の授業プロセス

板書も
ノートもない→時間の効率化

- 1 学習内容の説明（15分間）**
 - (1) パワーポイント&プリント配布
 - (2) インタラクティブ・インストラクション
(双方向のやりとりを重視)

質問、おしゃべり、立ち歩き自由。

- 2 問題演習（35分間）**
 - (1) 問題と解答・解説プリントを配布
 - (2) ピア・ラーニング

満点が目標！
必ず目標を基に振り返る。

- 3 振り返り（15分間）**
 - (1) 確認テスト
 - (2) 相互採点
 - (3) リフレクション・カード記入

教師の役割

- (1) ルール・目標を提示する。
- (2) コンテンツよりプロセスを重視。
- (3) 安全・安心の場をつくる。
- (4) 生徒の自主性を促す。

教師の働きかけ

- (1) 質問中心。
- (2) 気づき(リフレクション)を促す。
- (3) 全体、グループ、個人に対して適切な介入をする。

AL型授業の効果
(生徒達の声)

1時間集中し
てできた☆

よくわ
かった！

楽しく勉強でき
るからやる気
がでる。


クラスの雰囲気
気が和む。



難しい問題
がわかった。

教えること
でもっと良く
理解できた。

先生に教えられて気づ
くよりも、自分で考えて
わかった喜びの方が
大きかった。

今さら、先生に聞
けないことも友達
に聞いた！

「センター物理Ⅰ」向上
偏差値43.9  50.4

物理選択者数増加
3年「物理Ⅱ」22名  62名
2年「物理Ⅰ」40名  91名

生徒の自発的学習の場
「ふいじ★かふえ」誕生

「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発にAL型授業を提案する理由はもう1つあります。それは、専門学校等を卒業した人たちに必要なのはそこで習得するスキルと共に、「社会人として成長し続ける力」を育成することです。

なぜなら、そのスキルは彼らが定年退職する40年後まで有用であると言えないからです。それどころか、会社や職種が消滅することも今や常在しています。

例としては、「鉄道会社における切符切り専門職の消滅」「世界最大のフィルムメーカー=コダックの倒産」「富士フィルムの化粧品への転身」「ソニーのバイオ部門消失」などを挙げれば充分でしょう。

では、多様な専門コースを持つ専門学校に求められるものは何でしょうか？

私たちは、ピーター・センゲの「学習する組織」と最近のリーダーシップ理論に注目しました。

- ・センゲは「潰れない会社には学習する組織がある」と言います。それを支えるのは「学習する個人」です。「学習する個人」がチーム学習を経て、「学習する組織」をつくります。



授業を通して「学習する個人」「学習する組織」を育成することはできないか。

- ・新しいリーダーシップの定義は「建設的に人を巻き込むこと」です。これは「役職・権限・カリスマ性に関係のないスキル」です。



授業を通して、リーダーシップ・スキルの育成はできないか？

つまり以下の課題があります。

- 1 AL型授業に必要な「授業中に学生・生徒に関わるスキル」をトレーニングするメソッドはないか？
- 2 センゲの「学習する組織」を実現するためのトレーニング・メソッドは何か？
- 3 新しいリーダーシップ・スキルを育成するメソッドはないか？

これに応えるのがALセッションです。

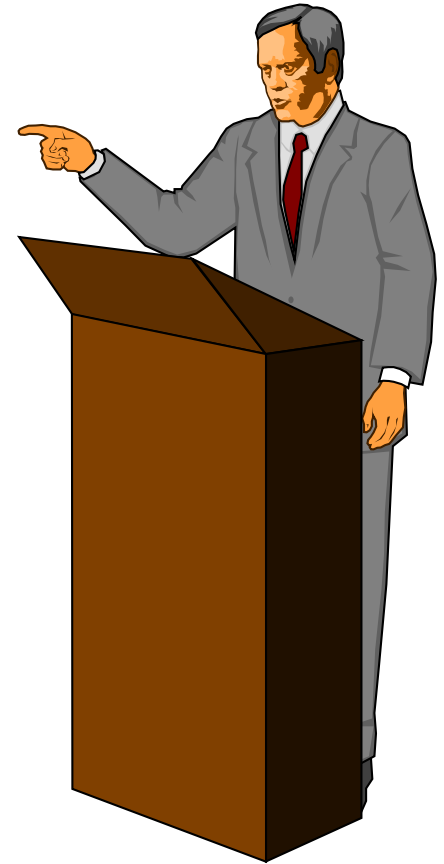
- 1 小林はALセッションを基にAL型授業の開発に成功した。
- 2 「(ALセッションは)ピーター・センゲ氏の「学習する組織」の実践的方法として活用されている」
(「学習する組織」、高間邦男著、光文社新書)
- 3 「リーダーシップスキルトレーニングの要素は(ALセッション)に全て含まれている」
(立教大学経営学部教授・日向野幹也)

※ALセッション=アクションラーニング・セッション。

アクションラーニングは「課題解決を考え、実行することで、個人と組織の学習を実現するプロセス」。その中核をなす会議を特にアクションラーニング・セッション(ALセッション)という。紛らわしいので、分科会ではAL型授業とALセッションと使い分けている。

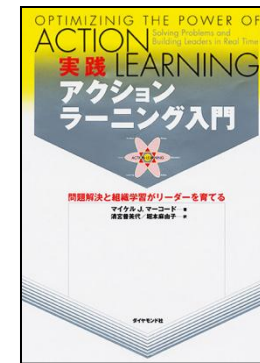
アクションラーニングの歴史的背景

- アクションラーニングの父
 - レグ・レバンス教授 (1907-2003)
- 不沈船タイタニック 1912.04.14
- 物理学者 (Cambridge Cavendish Laboratory)
- ウェールズ石炭協会理事
- MBA教授
- ベルギーでの活躍
- 英国王室診療所 (医師、看護婦)



マーコードモデルの特長

- プロセス重視
 - ⇒ 変化に対応する自律チームを育成(答えをリードしない)
 - チーム活動(協働)のコアを手法により生み出す
- 実践的プロセス・プログラム手法(平易な実践方法)
 - 定理:6つの基本要素
 - 実践的グループセッションの手法
 - 2つの基本ルール
 - グループ規範
 - セッション手順
 - AL(学習)コーチスクリプト
- **アクションラーニングを導く人材の育成**
 - **ALコーチ(学習コーチ)養成**
- 豊富なグローバルリソースを基にしたプログラム設計



マイケル J. マーコード
ジョージ・ワシントン大学大学院 人材開発学部教授。
ジョージ・ワシントン大学大学院 人材開発博士号を取得後、独自の理論をもとに、アクションラーニングを用いた人材開発プログラムを完成させる。米政府やグローバル企業など、世界で50以上の組織への導入実績をもつ。WIAL (World Institute for Action Learning)を創設。

アクションラーニングとは？

〈アクションラーニングの定義〉

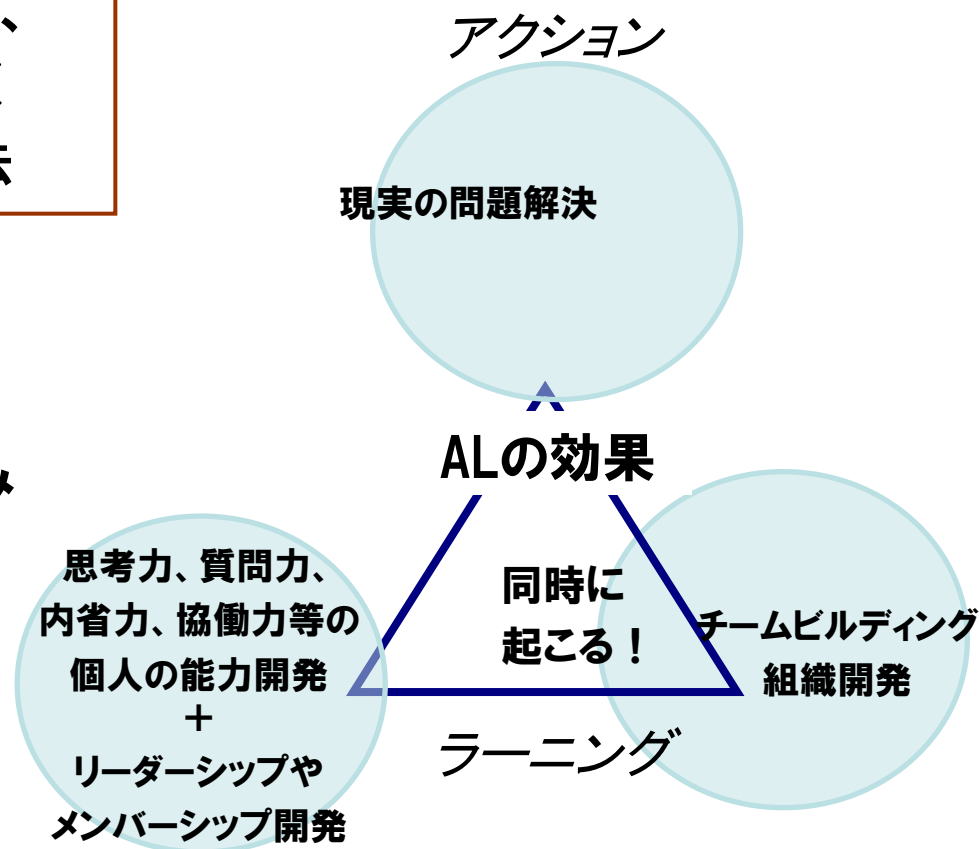
現実に仕事の中で抱えている課題を
チームで検討し、解決策を立案し、
実行する**問題解決**プロセスの中で、
組織・チーム・個人を育成していく
チーム学習という組織開発の手法

ALセッションと呼ばれる質問中心の
チーム会議で現実の問題を扱う。

日常業務と連動した継続的な取り組み
によって個人・チームが成長していく。



一粒で3度おいしい！



組織が直面している課題

- ◆リーダーが育たない
- ◆問題発見力が弱い
- ◆創造的、革新的な問題解決ができない
- ◆ビジネス基礎力が低い
思考力、質問力、対話力
- ◆コミュニケーション不全
- ◆モチベーションが低い
- ◆組織と個人の関係が分断し、
やらされ感が募っている

現場力の向上

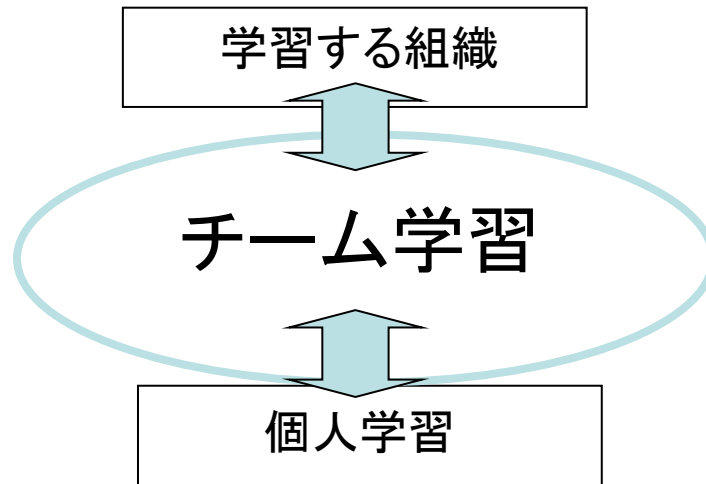
- ◆経営幹部層
 - ーチェンジマネジメントへの取組み
 - ー事業課題の設定と共有
 - ー経営会議の活性化
 - ービジョン・理念の浸透
- ◆マネジメント層
 - ービジョン・理念から戦略への展開
 - ー自律型チームの育成
 - ー戦略展開力・課題解決力の強化
 - ー支援型リーダーシップの発揮
 - ー目標管理の効果向上
- ◆社員層
 - ーキャリア開発によるやる気の醸成
 - ー問題解決力の促進
 - ービジネス基礎力の向上
 - ー協働でチームに貢献する力と態度
- ◆大学や高校への導入
 - ー学習者の力を引き出す教員指導力養成
 - ー学生のコミュニケーション力の育成
 - ー学生のピアラーニング力の活用

マネジメントの変革

P. M. Sengeの組織学習開発理論

学習する組織においては、競争優位は個人と集団の両方の継続的学習から生まれる
チーム学習は組織学習の中核となる

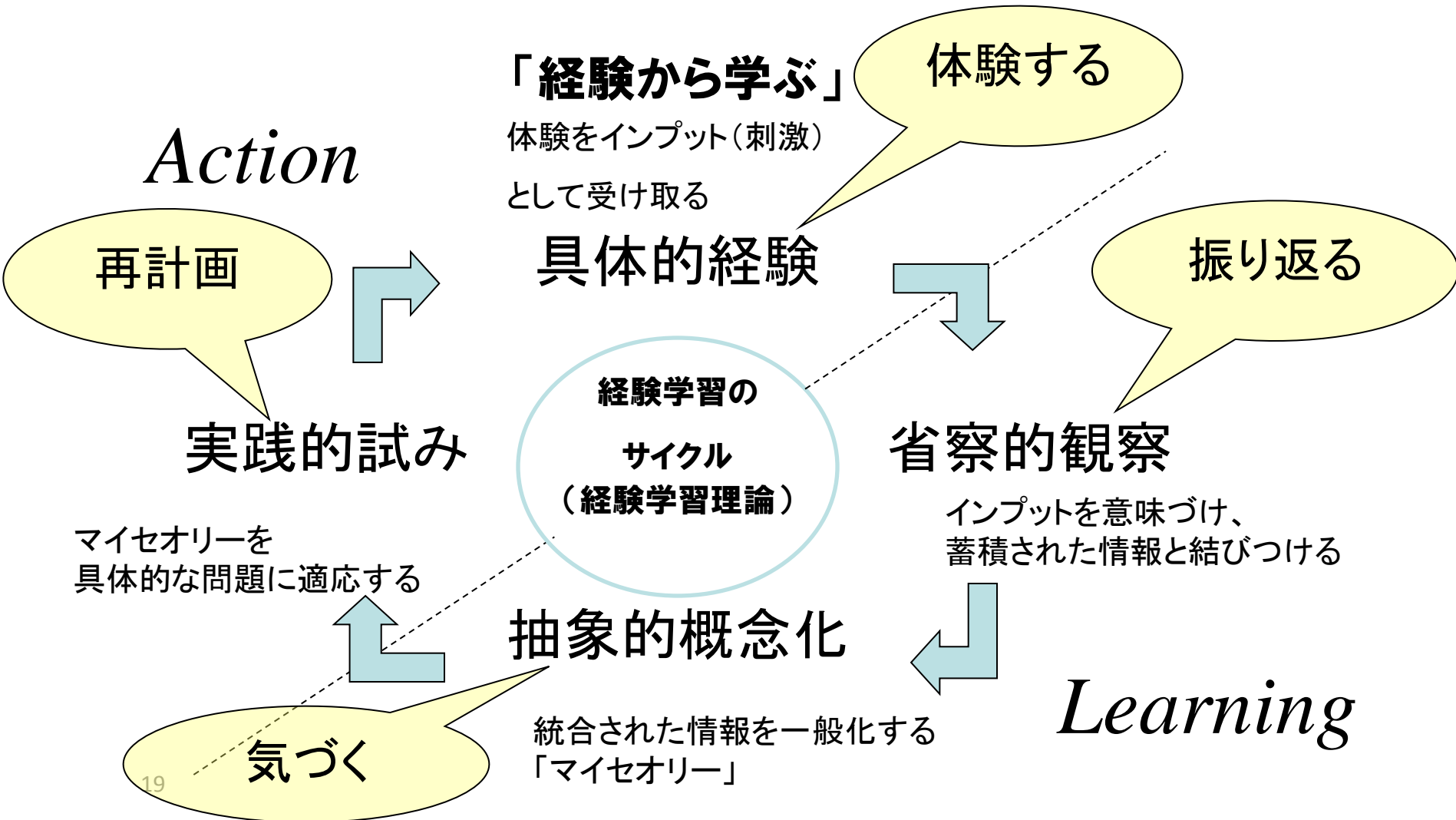
ピーター・M・センゲ



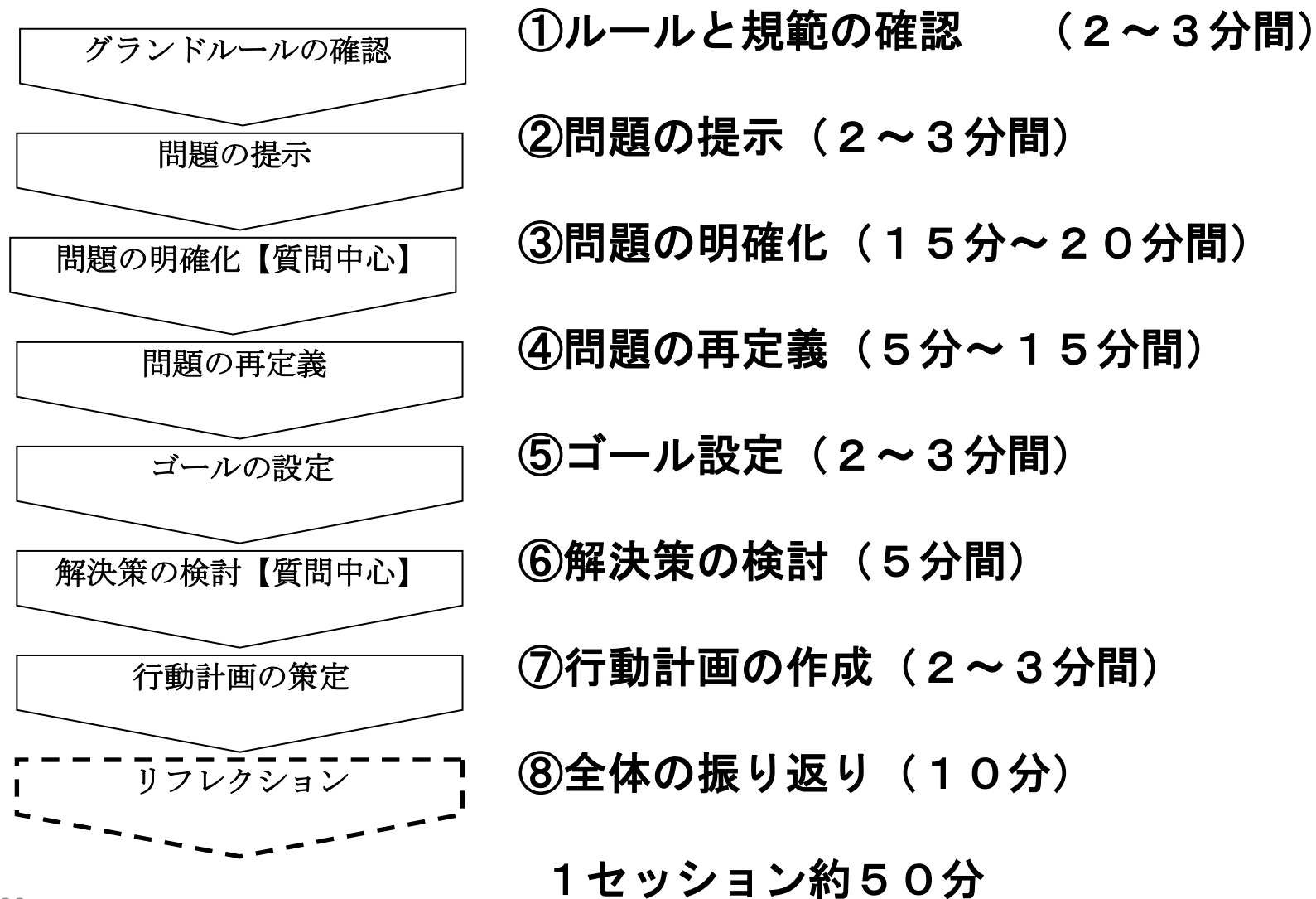
ALセッションは
チーム学習の場そのもの

旧来の思考方法（メンタルモデル）をやめ、
他人に対してオープンになること（自己マスタリー）を学び、
会社の実際のありよう（システム思考）を理解し、
全員が納得できる計画（共有ビジョン）をつくり、
そしてそのビジョン達成のため協力する（チーム学習）こと

Kolbの経験学習理論



ALのセッションの流れ



ALコーチと 「アクティブラーニング型授業」 を指導する教師の役割の類似

ALコーチ

目的・目標・
ルールを提示する

段階的進行を促す。

定例介入を行う。
(→チーム、個人)

定例外介入を行う。
(→チーム、個人)

振り返りを促す。

アクティブラーニング型授業をする教師

目的・目標・
ルールを提示する

段階的進行を促す。

定例介入を行う。
(→全体、各グループ、個人)

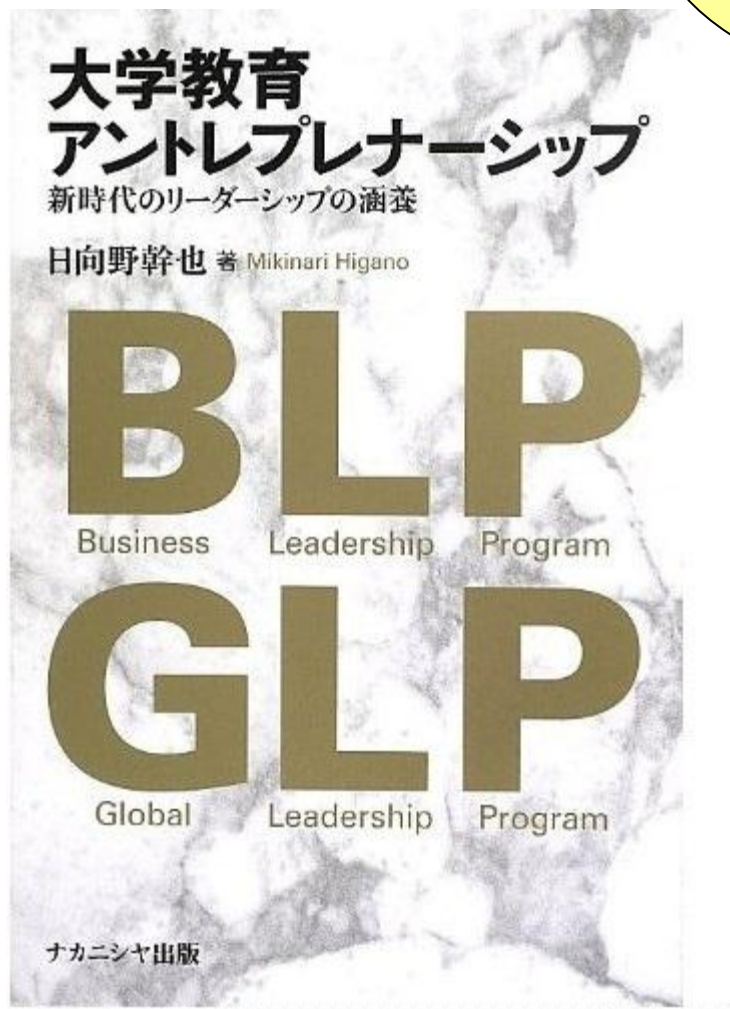
定例外介入を行う。
(→全体、各グループ、個人)

振り返りを促す。

「介入も
質問中心」
は共通



リーダーシップについて、
注目している
最も新しい考え方です。



「大学教育
アントレナーシップ」
(日向野幹也著、
ナカニシヤ出版)

リーダーシップスキル 育成の観点から

「役職・権限、カリスマ性に関係のないリーダーシップ」の育成ができる。

リーダーシップは才能ではなく、「意図的な訓練で誰でも習得できる」

「大学教育アントレナーシップ」
(日向野幹夫著、ナカニシヤ出版)より


不平不満を質問、提案として提出すること

(ALセッションにおける)問題提示は「自分の問題」を提示して人を巻き込むこと。

リーダーシップとは人を巻き込む力

(ALセッションにおける)再定義は、自分の立場を明示すること。

不満を苦情として伝えるのは消費者。不満を提案に変えて持っていくのがリーダーシップ



アクティブラーニング型授業を 実践する教員育成のための 計画

アクティブラーニング分科会

2014/11/12



概要

「職業実践専門課程」の普及を図るため、認定基準である企業・業界団体等との連携による教育課程の編成や演習・実習の授業運営等の好事例を示し、認定を目指す機運の醸成と教員の資質向上を図る研修モデルの開発・実証を行う

開発の目的

- 各学生の知識・技術等の習得度を高めるために、「アクティブラーニング(能動的学習)型授業」(=AL型授業)を設計し、実践し、自ら成長し続けることができる教員の養成
- 教室を「学習する組織(学習する学校)」として創造することで、学生が社会人としてのリテラシー・コンピテンシーを身に付けることを促進できる教員の養成
- 「アクションラーニング・セッション」を運営できるALコーチのスキルを習得することにより、授業中をはじめとして学校生活全般にわたりチーム学習を促進し、授業中の介入スキルを身に付け、リーダーシップを発揮できる教員の養成
- 教員組織そのものを「学習する組織」として、授業を媒介に互いに学びあう集団を創出するリーダーとなる教員の育成

事前

- eラーニング : 3時間
- 課題文献精読 : 3時間
- 課題作成と提出 : 3時間

研修

- 集合研修 : 1 2 時間

事後

- AL型授業実践 : 4 時間
- 実践研究報告書 : 5 時間

事前、事後を含めた研修の目標

- ▶ AL型授業が求められている時代背景等を説明することができ、AL型授業に関する理論等について理解できる。
- ▶ AL型授業が学生の社会人としての能力(社会人基礎力など)を育成する構造を持っていることを理解し、学生や同僚に説明できる。
- ▶ 自らの持つ担当科目に於いてAL型授業を計画し、実践し、振り返りを行い、更にブラッシュアップすることができる。
- ▶ ALコーチとしてのスキルを用いて授業中に適切に学習者に対する定例介入や定例外介入が実践できる。
- ▶ 授業時間以外にもAL型授業のスキルや、ALコーチのスキルを応用して、学生の成長を促進することができる。
- ▶ 勤務している学校内で、建設的に人を巻き込み、授業改善運動のリーダーとして活動できる。

事前

- Eラーニングで用いるのは、
東大MOOC講座「インタラクティブ・ティーチング」
(アクティブラーニング型授業を実施する教師を育成するための入門講座、
基礎知識を得るのに適している)

eラーニング	3h
アクティブラーニングの基礎	3h
1.アクティブラーニングについて知ろう 2.アクティブラーニングの技法 3.学習の科学	
文献調査	3h
キャリアガイダンス42 キャリアガイダンス47 ガイドライン2014/4 「アクティブラーニングが授業を変える」(日本教育新聞連載)	

課題作成と提出	3h
感想と気づきをまとめる	1h
1.eラーニングの感想 2.AL型授業の広がり理解して、 気づいたこと、感じたこと。	
自分の授業改善の目標と課題設定	1h
情報を踏まえて、自分の授業について考察する。	
提出とフィードバック	1h
1. クラウドにアップロード 2. 他投稿者の成果物の確認 3. コメントによるフィードバック	

集合研修

1日目：PM5h

1.AL型授業体験と振り返り 2h

- AL型授業(高校物理)を生徒役として体験する。
- 体験授業後の振り返りを通して、AL型授業の効果を意識化し、共有し、開発実践の意欲を高める。

2.スキル解説(特に介入スキル) 1.5h

- AL型授業に不可欠な
「目的・目標・ルール設定」
「定例介入と定例外介入」
について理解する。

3.授業研究と振り返り法(1) 1.5h

- 授業研究の方法、振り返り会の方法
- 授業観察の視点

2日目：AM3h PM4h

4.ALセッション(1) 3h

- 概説
- ALセッション体験
- ALセッションを通して、介入スキルを理解する。
- ALセッションを通して、自己の課題を明確にする。

5.ALセッション(2) 3h

- ALセッションを通して課題を明確にする。
- チームビルディングを体感する。
- 新しい「リーダーシップ」を体験的に理解する。

6.まとめとアクションプラン作成 1h

- 全体で振り返り
- 事後の授業改善の計画作成

事後

- AL型授業の実践
- 実践結果の分析、共有。次の課題を明確にする。

AL型授業を計画し、実践する	5 h	事例検討と共有	4 h
最低、3コマの授業で実践する	5 h	実践記録を作成し、提出する。	2 h
1.コマシラバスを作成する。2.実践する。		3コマ分の実践記録と分析をまとめる。	
3.生徒のリフレクションカード等を分析する。		共有、指導	1 h
4.参観者のコメントや質問を分析する。		提出された実践研究を、互いに読んでコメントする。	
5.自己分析をして次の授業計画を立てる。		講評	1 h
		インストラクターによる講評	

12/18-19 実証講座

■ 事前

- eラーニングで基礎的情報はインプットしておく。
- 提出課題は「感想」と「課題設定」。

■ 実証講座

- 2日間の研修

■ 事後

- 授業実践を課題にする。
- 授業実践を3時間。それに対するレポート提出。

タイムライン

	2014/10月	11月	12月	2015/1月	2月	3月
事前eラーニング準備	→					
実証講座の教材作成、修正	→					
実証講座 事前課題提示 (11/18)		●	→ ●			
実証講座 (12/18~19)						
最終的見直しと次年度以降への課題				→		
報告書作成				→		

IDデザインおよびALを使いこなす教員養成研修モデルの開発・実証

日 程 表

日 程	時 間	会 議
平成26年11月10日(月)	14:00～16:00	ID分科会(第4回)
	16:30～18:30	AL分科会(第3回)
平成26年11月12日(水)	14:00～16:00	開発・実証委員会(第3回)
		実施委員会(第2回)
		評価委員会(第3回)
平成26年12月 1日(月)	16:30～18:30	AL分科会(第4回)
平成26年12月15日(月)	14:00～16:00	ID分科会(第5回)
	16:30～18:30	AL分科会(第5回)
平成26年12月18日(木)		ID実証講座(1日目)
平成26年12月19日(金)		ID実証講座(2日目)
平成26年12月20日(土)		AL実証講座(1日目)
平成26年12月21日(日)		AL実証講座(2日目)
平成27年 1月14日(水)	14:00～16:00	開発・実証委員会(第4回)
		実施委員会(第3回)
		評価委員会(第4回)
平成27年 1月(期日未定) ※第4回と前後する場合あり		評価委員会(第5回)
平成27年 2月 6日(金) ※第130回例会同日		実施委員会(第4回)
		評価委員会(第6回)

全 1 2 時 間

* 各分科会について、評価委員の皆様は、可能であればご出席をお願いいたします。